

給食センター

問 建設計画について

答 現在の学校給食センター

については、老朽化が著しいことから、早急に改築する必要に迫られています。給食センターの建設については、10億円を超える事業規模になるものと考えています。そのため、財政状況が厳しい中で、事業実施ということから、PFI（社会資本整備に民間活力を導入するという手法）により実施するのがよいのか、また従来どおり市で実施するのがよいのかということについて調査検討して、将来において財政負担の少ない方法を見出していく必要があると考えています。

PFIは民間の資本やノウハウを導入し、建設や維持管理を民間に任せ、財政負担を減らすというねらいがあり、最近の事例では、平成19年4月から香川県の宇多津給食センターがPFI方式で建設及び運営を開始しており、また愛媛県でも県立中央病院がPFI方式

と思われる事例が挙がってきています。近年、携帯電話が子供たちの間にも急速に普及し、携帯電話のメールやインターネット等の掲示板等を利用して特定の児童・生徒に対する誹謗中傷が行われるなどのネット上のいじめという新しい形のいじめが生じており、他の市町村では実際に暴力事件等に発展した事例もあります。ネット上のいじめは他のいじめと同様に決して許されるものではありません。今後も授業の中で情報モラルの指導や保護者への啓発活動を行っていきたくと考えています。



副市長の所信

問 所信について

答 一般的に天下りという

言葉は、退職した公務員が関連する民間企業や公社、公団などに就職することを指して批判的に用いられていると考えています。

今回、私は国家公務員を完全に退職して地方公務員になったわけで、私自身も非常に悩み、人生での大きな岐路と言えるものではないかと思っています。今までも市、県それぞれ勤めさせていたのですが、そのときにはやはり国家公務員という身分を残した上で出向という形でそれぞれ勤めさせていただきました。

私としましてもこの大洲市のために少しでもお役に立てるのではないかとこの思いもあり、今回の人事を受けさせていただいたところでは、こうした私自身の感覚や思いからして、今回の人事を天下りという言葉で表現されますことについては、やはりちょっと違和感を持っているところです。



式での取り組みを進められているようです。

また、地産地消ということも大変重要ということから、公営であれば、PFI方式であれば、積極的に取り組んでいく必要があると考えています。

私の考えとしては、国、県、市、それぞれ異なる役割を担い、また立場も違うわけですが、力を合わせて市民生活の向上や安全・安心、それぞれの施策を推進していくという意味で、それぞれが対等な立場で意見を出し合う、協議していくというものであるかと思っています。私が今回新たに市役所に勤めることとなり、これを天下りというような固定的な観念で判断されることについては、やはり個人的には残念な思いがしています。

大洲市を取り巻く非常に厳しい財政状況の中で、乗り越えていくべき課題は山積しているというふうに認識していますが、大森市長を補佐し、大洲市民の立場に立ち、国や県に意見を述べながら大洲市発展のために全力で課題解消に努めていきたいと考えています。

